



太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和7年度 3月号(第13号)
令和8年2月27日 発行

【学校の教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心を持ち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

学校は 「勉強をするところ」「友達と仲良くするところ」「安心・安全なところ」

【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

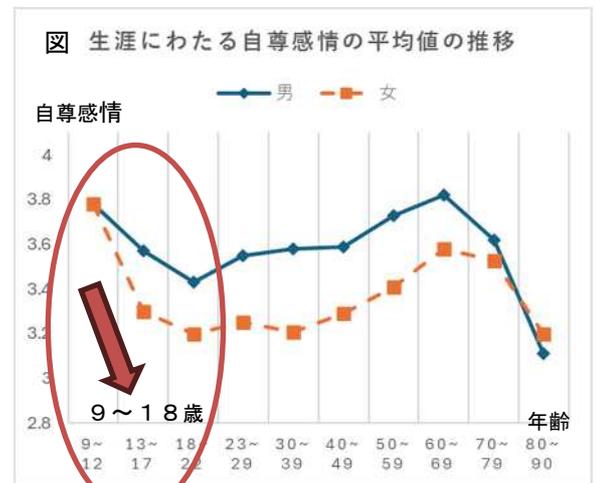
心に折り合いをつけて

校長 藤田 昌一

弥生3月は別れの季節です。3月5日(木)の「思い出集会」が終わると、6年生には、「卒業生」という新たな呼び名が加わります。私は4月に、6年生に向けて「学校の顔(代表)として、ふさわしい行動と活躍を期待しています。」という話をしました。日々の学校生活や授業態度はもちろん、各種行事においては「さすが最高学年!」「6年生はすごい!」という活躍で、下学年から尊敬と憧れの眼差しが注がれました。

そんな素晴らしい6年生(卒業生)ですが、自分に自信がもてずに悩んでいる子や、これから先の生活や勉強などに大きな心配や不安をかかえている子も少なからず見受けられます。

そこで、6年生(卒業生)に向けて、心が少しでも軽くなるためのメッセージを送りたいと思います。



上の図は、北海道大学大学院の加藤弘通准教授が『指導と評価』という雑誌で紹介したグラフ*です。これは、アジア人を含む世界中のあらゆる地域の人をサンプルに、9歳から90歳までの自尊感情(自分に対する自信、自己肯定感ということもある)の推移を示したものです。(※2023.8月号を基に藤田作成)

9歳から18歳くらいまでの思春期は、男女ともに自尊感情が下がっていくことが分かります。ですから、「悩んでいるのは自分だけではない」のです。そして、加藤准教授は、「長い人生の中には、自分に自信をもてなくなる時期もあるということ、その裏には、思考の発達や成長が隠れている」「もし自分に自信がもてなくなるようなことがあったら、ああ今、自分の頭がバージョンアップしているんだなって」考えてもらえるとうれしいと述べています。

それでも、行き詰ってしまったときのために、人生の大先輩(当時89歳)で精神科医(当時現役)の中村恒子先生の言葉を紹介します。

先のことは心配してもわからない。目の前のことがおろそかになっていないか? 気にかけるのはそれだけにする。(p110)

「自信がない」は、悪いことじゃない。急ごしらえの自信が、いちばん危ない。(p128)

人と比べたくなるのは仕方ない。でも、どんな元気そうな人でも悩んでいない人はいないことを知る。(p137)

『心に折り合いをつけてうまいことやる習慣』 すばる舎 中村恒子(聞き書き・奥田弘美)

*

結びに、令和7年度の教育活動にご支援ご協力をいただきました保護者の皆様、地域の皆様をはじめ、本校に関係する全ての皆様に、深く感謝申し上げます。